

# まどい

## 第201 最終号

秋田県羽後町仙道中学校昭和30年卒

186-0003 東京都国立市富士見台団地 3-11-106

### まどい編集室

tel/fax 042-574-8694 ・ 直090-2332-4408

http://www32.ocn.ne.jp/~madoi/

mail:madoi30s@ce.mbn.or.jp

## この五十八年を振り返って

飯塚 和 雄

『まどい』第二百一号にみなさんがらの「一行のお便り」をお願いして、昭和三十年以来五十八年の継続発行にピリオドを打ち、最終号にしたいとのハガキをいただいた、締め切りまでにはまだだいぶあると呑気にしているうちにあっという間にその五月末が目前に迫ってきました。

いま、手元にある第二十号以降の『まどい』を出して眺めて、五十八年もの長い間の継続にあらためて編集発行のご苦労とそがれた時間と情熱に思いをめぐらしています。身の回りのものはなんでも取っておくほうなので、第十九号までのものは家の中のどこかにしまっているはずですが、物さがるのは、中学校を卒業してから五十八年という時間が間違いなく経過し



間違いない経過し

のときどきのみなさんの近況を知らせてもらったこと、たびたび住所録も出してもらったことなどを振り返ったところですが、やはりこれまで恩師の先生方や十三人の同期生の計報と一昨年の東日本大震災には大変大きな衝撃を受けたことでした。

十三人の同期生と書きましたので間違いでは？と思われたかもしれませんが、昨年十二月二十八日に豊島健一君が亡くなられました。新聞の「おくやみ」に出されなかったことと市の広報で見落とされたために二月の終わり近くに聞いて本当に驚いたことでした。地元が集まりでも彼自身から病気のことで一度も聞いたことがなく、仕事をしつて頑張っているものとはおぼろしくおぼろしく思っています。『まどい』にもご紹介されることと思いますが、ただただご冥福をお祈りするばかりです。

東日本大震災では秋田県は直接大きな被害はなかったわけですが、復興までには何十年もかかるとか、日本中に

ている結果なのだと認めざるを得ません。

このたび、ざっと目を通して、そ

はたくさん活断層があつて、いつあのような大地震が起きないとも限らないといった情報を見聞きすると、間もなく後期高齢者という年齢にさしかかっているものとしてとても心細くなります。他界された十三人のかたたちには、なんと替沢な、と叱られそうですが、これからは自分のいまの状態をみきわめながら過ごさなければ、と自分に言い聞かせているところなんです。みなさん、どうぞお元気にお過ごしください。

五十八年間お付き合ひありがとうございました。



1955年(昭和30年)12月発行の「まどい」創刊号です。

# ちよひつなりー!



## まどい

### 高橋 幸之助

昭和三十年から続いた「まどい」がついに終焉を迎えた。思えばあのようにな小さな仙道村から散々に就職し全国に散った同級生達をつなぎ止めてくれた同期会誌ではあった。これはひとえに佐藤芳雄さんの苦勞があったればこそである。感謝し切れない思いです。何かと家族の方など大変なときも頑張って発行を続け、ついには二百号という数字が生まれた。

そしてそこに投稿し支え合った仲間がいた。発行された「クラス会20年」「まどい25年」「素顔の四十五年」等の本はガリ版刷りから始まりついにはカラー印刷写真入りと変わっていった。「保存版同期会アルバム」を見るにつけこの同級生達のしたたかな生き様が見て取れます。

昭和五十五年仙道の生活改善センターにおいて行われた「四十二

厄払い同級会」の写真。母校仙道中学校前での集合写真。残念なのはこの写真の中に数名の同級生の姿が消えてしまったことである。そして又一人豊島健一さんが逝ってしまった。平成二十年の「古希を祝う会」には元氣に参加され得意の喉を聞かせてくれたのに。

そして二〇一二年三月十一日あの忌まわしい大震災。何をどうやって皆さんに声をかけて良いものやらうろたえたものでした。仙台の菊地さんについては全国の同級生の方からその安否についての問い合わせが殺到しましたが、どこかで誰かが具合が悪いと聞くと皆さんすぐに心配してくれます。仲間です。絆です!

こうしているいるあったこの同期会誌は今回でついに終わります。なんの役にも立てなかったが、佐藤君へは口だけ出しました。

# ありがとう

## 御座いました。



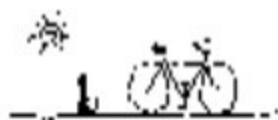
### 高橋 廣子

五十八年間、発行号数二百号、長い年月と膨大な作業を続けて来られた佐藤さんに大きな拍手を贈りたいと思います。非協力的だった私が投稿させて頂くのも、申し訳ないのですが、いつも、紙面から皆さんの元氣な様子を想像しておりました。長い間輪をつなぎ続けてくださったのですから、仮に終了すること

本当に長い間ありがとう!ご苦勞様!そして全国の同級生の皆さん、先もうっすらと見えてきたような気もしますが明るく頑張っって暮らしていこう!

皆さんありがとう

おげんきで



還暦同級会 1999 (平成11年)



還暦同級会 1999 (平成11年)

になっても、皆さんとの絆の輪は解けることはないでしょう。永きに亘っての「まどい」編集たいへんご苦勞様でした。二百号まで続けてこられた事に感銘します。本当にお疲れさまでした。お互い決して無理をしないといけない年令になりましたが、氣力を養い更なる生き甲斐を探しましょう。みなさんお身体を大切に。お元氣でお過ごし下さい

(昔の写真で「まどい」の編集)

# 励まされ 癒されました



今福崇文

永きに亘って

の「まどい」編  
集たいへんご苦

労様でした。二百号まで続けてこ  
られた事に感銘します。

自分は卒業してすぐに、大工の  
修行で上京してしまい、長い間故  
郷に帰ることも同級生の皆様に会  
うこともできない時に届く「まど  
い」には大変励まされ癒されまし  
た。今でも時々読み返しています。

特に同級会開催の知らせには心  
が躍ったものでした。誰に会える  
か、あの人は来るかなあと当日が  
待ち遠しかった事を懐かしく思い  
出されます。また皆様の便りが懐  
かしく楽しみでした。

二百一号が最終号とのこと淋しい  
気もしますが、五十八年間手がけ  
てくれた編集室に感謝の気持ちで  
いっぱいです。

もし最後の同級会でも催すよう  
でしたら是非参加したいと思っ  
ていますが、体が若いといけるかと

うか、どうなる事や  
ら・・・

同級生の皆様は元  
気で過ごされていてま  
すか、変わりなきこ  
とを祈っています。

「まどい」最終号楽しみに待つ  
ていま  
(5月26日)

## 皆さんといつも間近に！



高橋貞子

「まどい」が  
届く度に同級  
生みなさん  
の間近に感じ  
ることができ  
てほんとうにうれし  
かったです。同級会  
でお会いしたときも  
いつも楽しい同級会  
でした。みなさんの  
お顔ばかり目に焼き  
付いていたような感  
じがあります。

ほんとうに楽しかっ  
たです。山あり谷ありの人生でし  
たが、先に旅立たれた同級生お一  
人お一人の事を「まどい」で知り  
ました。今ここに命があることを  
幸せに思っています。同級生のみ  
なさんお体に気をつけてお元気で  
お過ごし下さいませようお祈り申  
し上げます。

## 竹細工で 楽しんでます。 土田栄治



皆さん ご無  
沙汰しています。

佐藤さん、長  
い間「まどい」を送ってくれてあ  
りがとうございました。

最初みんなに何十年ぶりかであ  
えた時は本当に嬉しかったです。

今は竹細工を今日も作っていま  
す。佐藤さんも体に十分に気をつ  
けて下さい。自分も頑張っていき  
ます。

ご苦勞様でした。

最後になって申し訳ございませ  
ん、何十年も「まどい」を編集し  
て送って下さいました佐藤さん、  
本当に感謝の気持ちでいっぱい  
です。

ありがとうございます。

ご苦勞様でした。

2002年(平成14年)7月。箱根熱海  
秋田から8人も参加、楽しかったね!



古希祝い同級会 2008(平成20年)



## 楽しみは二人で 野球観戦と カラオケ



井上文子

「まどい」の皆様お元気ですか？  
無沙汰しております。  
私たちは相変わらず元気です。  
芳雄さん貴方のおかげで同級生の皆様にお会いすることができて本業に幸せに思います。ありがとうございました。  
私は体も良くなって、白内障の手術をしまして目も良く見えるようになりました。自分の好きなこと何でもやって見たくなりました。  
先日家族で桜の花見に行ってきました。毎週必ずめが買物に行ってくれます。  
楽しみと言ったら二人で巨人野球のテレビをみることもかな、カラオケかな。  
同級会はいつも楽しかったね。思い出します、皆さんも体を大事にしてください。

## 高齢化社会を



## 幸齢化社会に！

柴田友幸

あの人ののおかげで今がある、良く効く言葉だ。どんな人と出会う縁を結んだかで人生は変わっていく。そして出会いには常に別れを伴う。卒業、旅立ち、そして死別。出会いと別れを繰り返しながら人は生きてきたと思う。人生は後半が本番。親や夫妻といった「家族の責任から解放され、一人の人間として元気に暗れやかに生きる姿。そこには「晩年の底力」が輝いています。高齢社会を「幸齢社会」の換えていくのは自分自身。「人生七十希なり」なんて今は昔、現在は人生七十近來多数でしょう。しかも個人差があるとは言え、元気な人が多いのです。その中に人様の役に立ちながら自身の健康を保持している方もいる。生きる張り合いを持って若々しく生きる人生の先華は本当に清々しい気持ちになりますね。こちらまで若くなるような気がします。

その若々しさの秘訣が人生の目

標を持って生きること。物語っているような気がする。人生は最終が大事だ。最後の数年が幸福であれば人生は幸福とも聞。確かにいくらか若いときに成功してもはやそれたとしても、最終章が不幸であれば敗北の人生になってしまう。そうではなくそれまでの経験を生かし自身の人生を彩って行くことが大切なのかも知れない。確かに年を重ねれば若いときの体力はなくなる。でも人生には定年がない。いくつになっても心を若々しく希望に挑戦し続けて行く心がいせつなのである。

人と比べる必要はない。自分らしく健康で希望と目標を持って生きればよい。確かに心の持ち方や努力だけでは解決できない悩みが多く、特に高齢になると自分らしく生きたいという願望が強い故に、理想と現実の狭間に苦しむ事が多いかも知れない。例えば家族問題や懸命に働いてきたのに病氣や不慮の事故に遭ったりする場合もある。どんな環境にどんな容姿や性格で生まれるかは自分では選ぶことができないのである。

また、人生の途上に思いがけない様な出来事があります。それに対してすべては偶然だと考える

**仙道番楽in有楽町**

平成26年に行われる「第39回国民文化祭・秋田2014」をPRするため仙道番楽東京公演が行われます。

イベント名「ふるさと秋田まつり」in有楽町

9月28日 12:30

有楽町駅前広場

盆踊りも披露されます

人もいるし、神が与えたものと教える宗教もある。また仏法では「三世生命」過去・現在・未来の観点からいま自分が味わっている様々な結果は、遠い過去から自分の生命に刻んできた「業」に寄るものだと説いている。俗に「自業自得」と言うようにあきらめるのではなく、どのような小さな事でも高齢だからと言わず、希望を持って行動するところに生きていく楽しさがあるかも知れない。

尚、今日まで同窓会、「まどい」等に携わって励ましを送って下さった方々に心より感謝申し上げますとともに健康第一に自分なりに頑張ってください。

自分も残り少ない余生を人のため地域のために頑張っていく所存です。

又皆様と何時か会える日を楽しみに人生を頑張りましょう。



吉田千子

月に一度の「まどい」が一番楽しみで待ち遠しかった印象があります。

年とともに体力の限界で、ペンを持つ気力も失っていると思えますが奥様の香病をしながらの「まどい」を長い間本当にお疲れさまでした。

今の奥様はいかががでしようかお大事になさってください。



高橋経子

長い間ありがとうございます。いつもご迷惑をおかけしているのにお心に掛けていただきお礼の申しようも御座います。お元気で。ありがとうございます。



今野良美

五十八年間「まどい」を送って下さい

# みなさんお身体を大切に!

まして誠にありがとうございます御座いました本当にご苦勞様でした、残りの人生自分の為にお使いく下さい。本当にありがとうございます御座いました



上原和雄

長い間ありがとうございます御座いました。同級会はあまり参加できなかったです。ありがとうございます。



鈴木守之助

芳雄さん、先ずは長い間「まどい」を続けていただきご苦勞様でした。「まどい」のおかげでみんなの心ががっちり一つの絆となったのは過言ではないと思っています。楽しかった旅行、集い等おりにふれ思い出し心の癒しにしています。又いずれどこかで会えると良いですね。体に気をつけて、本当にありがとうございます。



大村シゲ

長い間「まどい」の発行ありがとうございます御座いました。同級会など楽しく参加させていただきました。田舎の同級会も大勢の皆さんと会うことができていい思い出になりました。今は孫と遊びに出るくらいです。皆さんも体に気をつけてください。



布川勝之助

あのころは、文字活字にふれることも少なかったのでも届くのが楽しかったです。改めて見ると長い時間になるんだね。おたがいがだが年取ったのが分かるよ!



武田勝太郎

俺ナ、「まどい」がなかったらみんなに会えなかったよ、ほんま感謝してるよ! それにナ、孝ちゃんも、横梁もヨッちゃんも言うようにナ、俺には過ぎた女房もいるしナ、言うことな

いよホンマニ!

五十八年や言うけど俺は途中からだからナ、横浜でやった最初の同級会では、みんなになんと言っていないめられるかとそればかり考えていた。でも来て良かった。今でも思い出すよ。ほんまにありがとナ よっちゃん。



辻本あい子

同級会は楽しかったねいろいろ思い出します。最初は日本舞踊をやっていたんですけど、足が痛くなってからはダメになって、今は大正琴をやっています。近く発表会があるんですよ。

みんなもそうでしょうけど、この年になるとあちこち悪くなって、でももう少し頑張りますよ。

「」行のお便り「」版に感謝します。

お話しもあつてたくさんのお返事をありがとうございます御座いました。七十歳を過ぎてまだまだお元気な皆さんです。サラに生き生きと楽しみを見つけて「これから人生を楽しんでください。」



## 同級会は 開催して下さい！

武田竜太郎



同級生の皆様ご健康の事と存じます。この度は通信誌「まどい」の発行を長く続けられた事はご苦労さん。ありがとうございます。

私も現役で元気に山林業務に働いています。

一番気楽に楽しく話のできるのは同級生のみなさんです。これからも皆元気で会いできるような後も同級会を開催してください。幹事さんはご苦労をかけますが。

現在四月二十四日、仙道は豪雪だったので未だ田圃に五〇センチくらいの残雪ありますが、黒々とした土が出てきます。その中で農業に元気で働けるのが一番の楽しみです。苗作りにハウスの中で仕事ができます。

みなさんのご健康を祈念申し上げます。  
(25/4/24)

### 先立たれた同級生のみなさん

高橋三枝子	1959/9/18	昭和34年	20
武田 秀行	1985/02/02	昭和40年	26
高橋タキ子	1968/10/24	昭和43年	29
土田 貞一	1983/04/10	昭和58年	45
今平 忠雄	1991/06/04	平成3年	53
三浦 浩二	1994/02/14	平成6年	56
土田 清	1998/06/08	平成10年	60
今野 健三	1999/02/24	平成11年	61
内藤 清志	2001/05/20	平成13年	63
高橋 ミチ	2009/04/06	平成21年	71
金子 健治	2010/07/21	平成22年	72
今野 正治	2010/08/03	平成22年	72
豊島 健一	2011/12/28	平成23年	73

### 豊島健一さん ご冥福を お祈りします



平成二十三年十二月二十八日、湯沢市山田に暮らしていらした豊島健一さんが亡くなりました。ご冥福をお祈りします。詳しいことはよく分かりませんが同級会などでは長く自慢の喉を聞かせてくれました。

二年前になくなった金子健治さん。実は最近になって元気な彼の写真が見つかりました。花巻に居られる頃の写真です。「まどい」では昔々の写真が載っていました。下の写真は花巻の自宅と奥様と一緒にです。本人はこのころから実は病気持ちなんだと語ってくれました。

お疲れさまでした、  
ゆっくりにお休み下さい。

私たち人数の少ない学年でした。その中からもう十三人が旅立たれました。表は同級生の物故者です。私たち人数の少ない学年に取っては多い数です。



金子健治さんです

た。貫禄十分のいい写真ですね。

一九九九年平成十一年の還暦同級会では、水澤先生が「俺より先に逝くな」と声を張り上げて叫びました。それまですでに八人がなくなっていました。

大きな声でそう叫んだ水澤先生も平成十九年十二月に亡くなってしまいました。

、六十二分の十三、ひたひたときざ波のように水かきが増すような感じもします。

# 新緑の京都に遊ぶ

## 高橋孝之助

五月十六日十七日と一泊で京都見物に出向いた。娘が母の日のプレゼントと言ふことらしい。久しぶりの家族旅行、なかなか良いもんだナと内心嬉しい。天気も五月晴れ、絶好の旅日和か。名古屋から新幹線でわずか一時間。車内でも弁当でも思っていたがそんな暇もなく、もう京都。名古屋に来て

から始めての京都。

その人の多さに先ずは驚く。外国の方、修学旅行の学生、人に当た

らないように避けて歩くので疲れる。娘がホテルに荷物を預けて来るから待っているようにと急ぎホテルへ。足が不自由なカミさんの手を引いて人混みから離れる。すぐに娘が帰ってきて、これからバスで観光と言ふこと。すでにバスの切符も買ってきていた。二十四名の席は満席、町の道路は狭く、観光バスとタクシーの多さに驚く。運転手の神業のような運転に乗客もハッ。

やがてメインである清水寺に到着。しかしこの急な上り坂石段、そしてこの人の波。ガイドさんの旗など全然見えない。家族が迷子にならないようにしっかり手をつないで足下ばかり気にして・・・土産物屋など見

てる余裕なし。ようやく清水の舞台に立った、しかし今は新緑が生い茂り下を見てもなんら怖くもない。高所恐怖症の私でもしっかりと下をのぞき見たが手はしっかりと手すりを握っていた。時間までに

バスに帰らなくてはならない。登ってきたミチは下らなくてはならない。又二人でカミさんの手を両脇から抱え右段を下る。腹は減る時間は気になる。

それでも途中やっとな肉まん一つ食べれた。時間もどうやら余裕があった。ようやくベンチを見つけ、腰をおろし周りをみる余裕ができた。外国の方の多さはさすが京都だナと感心。そして修学旅行の生徒達、引率の苦勞も大変だろーなーなどと話ながらバスまでたどり着いた。やがてバスは次の目的地金閣寺を目指して出発。

この狭い道路を観光バスはわずかに数センチのすれ違いだ。またまた乗客はホッ。金閣寺、本当の名は、鹿苑寺(らくおんじ)と言ふそうだ。まばゆいばかりの金(張り)。娘の写真のぼーす。人並みに押されるように又バスに乗る。

次は高台寺、ここは庭園がすばらしい。人混みもなくやっとな場所に来た感じ。こうして一日目、夕方六時、ホテルへ。フランス料理に舌鼓。ワインを頂き明日



は銀閣寺を期待しながら寝れぬベッドで即死。

翌日暑いほどの天気。又バスで銀閣寺へ。午後三時四十分新幹線に。疲れたが良い旅行であった。

娘よ

ありがとう。



## 58年お付き合いを ありがとうございました



佐藤 芳雄

さて、「五十八年のお付き合いをありがとうございます」と言うことになりましたが「勝手に止めるな!」と言われるかと思いましたがそんなこともないようなので、私佐藤個

全国の同級生の皆さんお元氣でお過ごしでしょうか。最近の異常気象では、あちこちとその被害は出ているようです。相手がお天道様では喧嘩の仕様もありませんがお互い助け合って生きていく事ですね、原因は太平洋高気圧云々ではないでしょう、元々人様が地球を食い荒らしたことが原因なのでは無いでしょうか。

人の様子でもお知らせしようかなと思います。

ここに来て特に集中力が無くなり特に書くことができなくなってしまいました。妻の自宅介護を始めてもう五年目となります。ヘルパーさんや訪問看護などお世話になりながらのことで、介護をしているなどというようなことでもありませんが、この生活の変化とストレスから喫煙量が倍以上になり体力の減退は介護動作にまでも影響してきました。そこで禁煙に踏み切り一年半になりましたが、集中力の欠如は禁煙に依るストレスからもきているとおもわれます。今この作業に取り組みんでいると無性にタバコがほしくなります。

今回の「一行お便り」をお願いしておきながら全く進まないのはこうした集中力の欠如に依るものでした。遅くなって申し訳なく思っています。

上の写真を見て、何人かの友人は若返ったのではないかと言ってくれました。最近ヘルパーさんに撮ってもらったものです。見た目はまだまだ使えそうですが中身はガタガタ特にノウミソ。そんなことでこれからの編集作業は到底無理だと思っています。特別なことが発生しましたらもしかしたら出

張るかも知れませんが自信はありません。

五十八年。半世紀余。振り返ればなど一言で済むことではありませんが。過ぎたことを語り合っても仕方がありません。たまたま個人データ。ある日孝之助さんが「これは公表できるものではないナ」と言ったように半世紀余の同級生の個人データがありました。すでにスレッターのエサになりました。異常なほど過去の栄光(あるわけない!)にしがみついていたものが、身辺整理の名の元に分身を処分しているのです(まどい関連だけでなく)が(そんなことであえて五十八年を語ろうとは思いません)。

分身を捨てる話ですがもっと辛いことは、もう身に付けることもない妻の洋服等々、この世に奇跡が起きてもあり得ないこと知りながら、未だ何一つ処分できないで居ることです。

今から十二年前。そのころものすごい勢いで浸透していったのが「インターネット」それなら「まどい」でもホームページを開設しました。下の絵が、そのホー

ムページのロゴマークです日本中はもとより世界中の人が見られると言うインターネット。ところが同級生で見られるのは2、3人。すでに還暦を終えた私たちのこと考えてみればなんの不思議もありません。これは私個人のものと思いがっていますので、その関連をうまく調整できればすぐにも削除することにします。しかしこの十数年後の今七十歳八十歳の皆さんはパソコンスマホを自由に使いこなしているのを見ると、光陰矢ののごとしがまともにぶつけられた感じもします。

全国の同級生の皆さん。本当に長い間ご協力をありがとうございます。自由会費。お一人十数万円の方から五百円まで。「まどい」発行への力強いご協力に心から感謝しています。本当にありがとうございます。御座いました。

武田竜太郎さんが言っていました。これからも同級会だけはやってください。定期の連絡は取れなくなると思いますが皆さんどうぞお元氣で。

まどい  
MADDOI

1955年中学校を卒業したものの連の  
和と絆の物語。